

ホタテガイ 養殖管理情報

ホタテガイがケガをすると異常貝になるので
冬季のシケに備えて施設を安定させましょう

1 ホタテガイのへい死メカニズム

- ① 玉付けをし過ぎた不安定な施設では、波浪の影響を大きく受けることから、調整玉の影響により養殖施設や籠が上下動します(図1)。
- ② 1週間以上シケが連続し、餌を取れないと、小さい貝ほど弱って貝殻を閉じれなくなるため、貝同士のかみ合わせや籠への擦れが多くなって、外套膜(ヒモ)がケガをし、異常貝となります(図2)。
- ③ また、鰓(エラ)が傷害を受けると、ワタ抜けになり呼吸や餌を取ることができなくなります。
- ④ 軽傷であれば回復しますが、ワタ抜けや重傷の異常貝はへい死する危険性があります。
- ⑤ なお、水温が低い場合は、餌を取り込む能力が低下するため、へい死の危険性がさらに高まります。

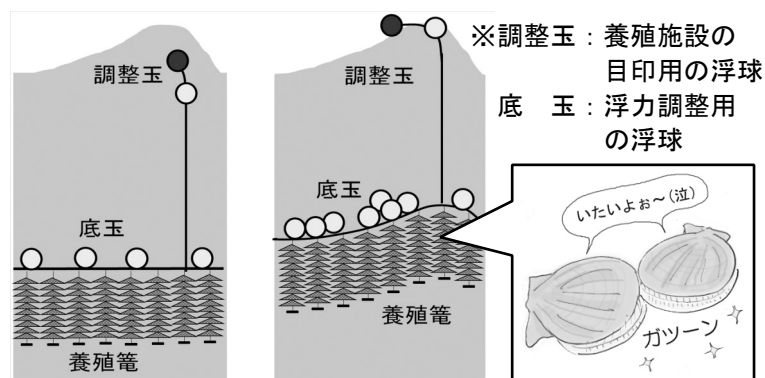


図1 安定した施設（左）と不安定な施設（右）におけるホタテガイのぶつかり合いのイメージ

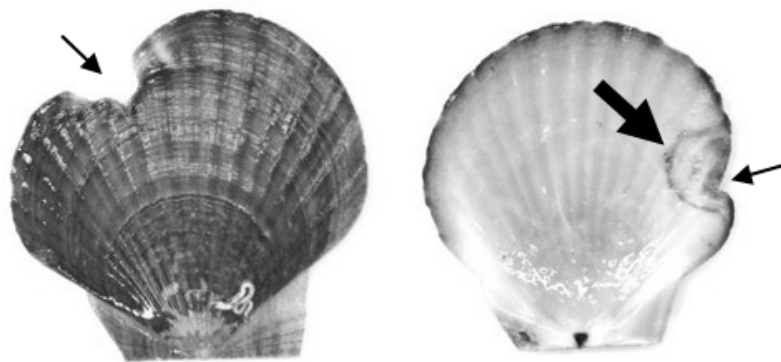


図2 異常貝（細い矢印は欠刻、太い矢印は着色）

2 冬季における養殖管理の注意点

異常貝の原因は病気ではなくケガです。これから冬のシケが多くなるので、ケガのない元気なホタテを育てるために、以下に注意しましょう。

①調整玉の箇所数を少しでも減らす

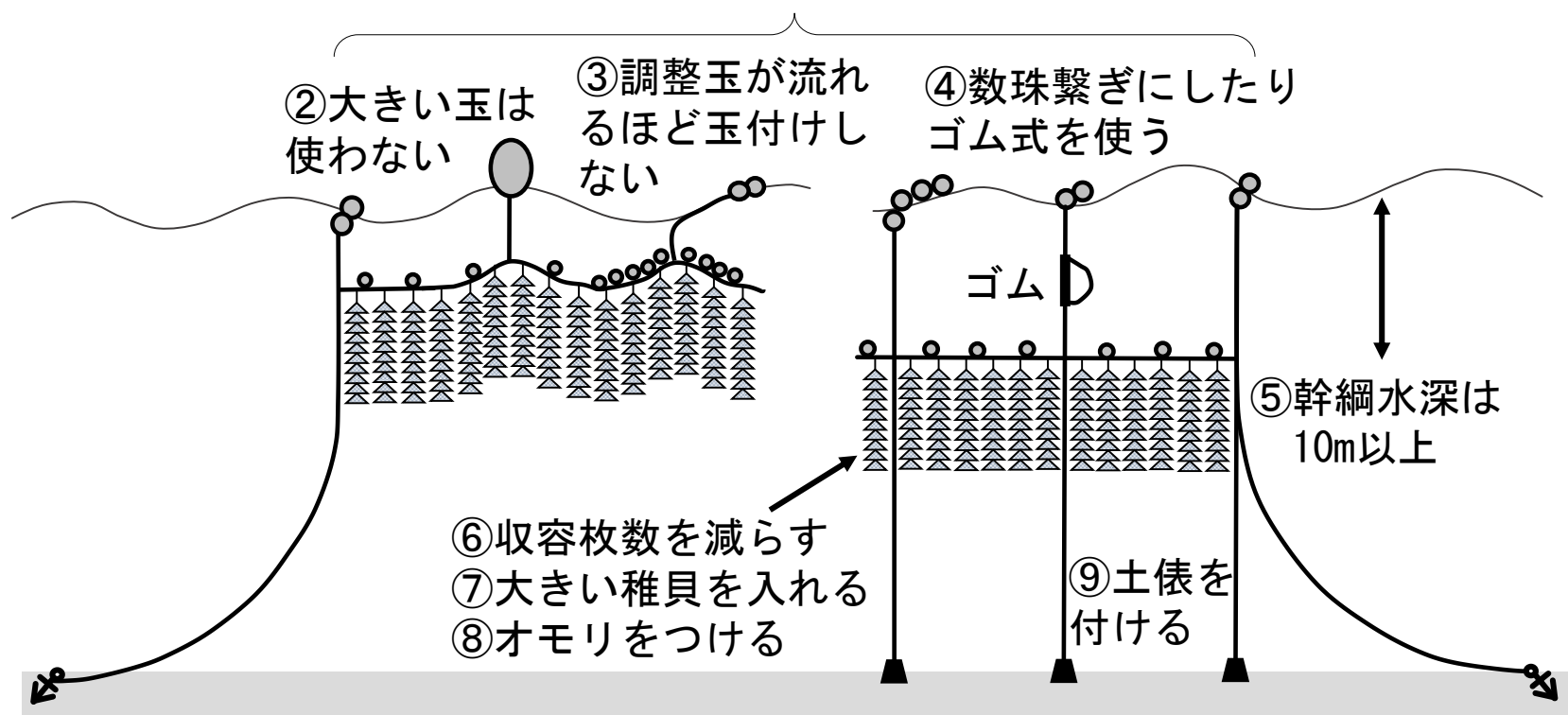


図3 養殖施設のイメージ（左が不安定施設、右が安定施設）

